

えんだより

2024年

5月号



NO.218

シャローム三育保育園

新年度がスタートして1ヶ月がたちました。子どもたちも新しい環境でだいぶ慣れてきたようです。晴天の日は園庭のこいのぼりが本当に青い空を泳いでいるように見えます。子どもたち一人ひとりの健やかな成長を願い、安全に安心して保育園生活を過ごせるように努めてまいります。何かございましたら遠慮なくお声掛けください。

園長 村上 渉



避難訓練の様子も配信いたしますのでご覧ください。

《お知らせ》

〇〇 〇保育士が入職いたしました。



今月の予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7 体操教室	8 避難訓練	9	10	11
12	13 礼拝 英語教室	14 体操教室	15	16	17 内科健診	18
19	20 礼拝 英語教室	21 体操教室	22	23	24	25 布団乾燥
26	27 礼拝 英語教室	28	29 誕生会	30	31 お弁当の日 (3・4・5歳児) 保育園職員会議	

「遊びを創造する」

先日、園庭で子どもたちが集まっていたので覗いてみると、アリの巣を見つけてその様子を真剣に見ていました。この春に初めての虫たちとの出会いがあるかもしれませんね。

園庭の中でもすみれ組からくま組までみんなに人気なのが「砂場」です。公園遊具の「三種の神器」といえばブランコ、すべり台、砂場です。この3つは1993年の都市公園法改正までは、公園を作る際に設置義務があった遊具だそうです。小さな公園にも必ずといっていいほど砂場がある理由がわかりました。

遊具としての砂場は18世紀半ばのドイツが発祥と言われています。その後、アメリカに伝わり貧民街の子どもたちの為の遊び場設置運動が起こり、日本でも子どもの遊具として幼稚園や教育の場に砂場が普及していきます。今も昔も砂場は枠の中に砂が貯められているだけですが、子どもたちが黙々と遊んでいる姿をよく見ます。まさに「没頭」という言葉がぴったりくるかもしれません。砂や土には力を加えると固まる可塑性という特性があります。砂遊びは形の無いところから遊び手の想像で思い描いたものが玩具になります。お山を作ってトンネルを掘る。丸めたり、型にはめて並べたり、模倣遊びのレパートリーは無限です。遊びの発展に合わせて何度も作り変える事ができるため創造力が育ちます。



今の時代、様々なおもちゃがありますが、大半はある程度遊び方や対象年齢があります。一方で砂には対象年齢も決まった遊び方もありません。素材はシンプルですが遊び方は無限大です。好きな玩具があって遊ぶのも楽しいと思いますが、自然に触れながらそこにあるものから「遊びを創っていく」ことを遊びとしてお子さんと一緒に楽しんでみて下さい。

園長